

いま私が思うこと

第5期生 近澤 絵里菜

これからもよろしく願います——。

小野ゼミで過ごした2年を振り返って、いま私が思うことは、この一言に尽きます。

卒業を間近に控え、色々なことに「学生生活最後の」という言葉がつきまとうようになった。自分が学生ではなくなる日が来るなんて。分かってはいたけれども、こんなにも早く来てしまうなんて。卒業したら、社会人だ。・・・社会人って。もっとオトナだと思っていた。大丈夫かな。焦る。

漠然とした不安や焦りを抱えた私に、小野晃典研究会の現役生として最後に与えられた課題が「小野ゼミでの2年を振り返って」というテーマの文章執筆であった。そんなものを書き上げてしまったら、本当に、これでもう最後なのだと思ひ知らされる気がして、なんだか無性に寂しくなった。

「出会いを大事にするということは、別れを大事にするということなんだよ。」——昔読んだ本の中の言葉に元気づけられながら、いま、パソコンと向き合っている。

私は、思う。本当に、実に満ちた2年間だった。がむしゃらに、ただただ、前を向いて毎日を過ごしていた。たくさん学び、たくさん悩み、たくさん泣いて、たくさん笑った。何もかもが嫌になってしまったことは、一度や二度ではなかった。それでも、ゼミを辞めてしまいたいと思ったことは、一度たりとも無かった。小野ゼミには、仲間がいたから。うまくいかないときも、悩んでいるときも決して一人ではなかったから。愛すべき仲間と約束しなくても会えていた日々を懐かしく思う。

振り返ってみれば、辛かったこともすべて笑って話すことができる。そんな私は、少しだけ成長できたのかもしれない。小野ゼミで起こったすべての出来事に、小野ゼミで出会ったすべての人たちに、私は言い尽くせないほどの感謝をしている。今まで本当にありがとう。小野ゼミという、厳しくも温かい場所で過ごした日々を思うと、笑顔で締めくくる自信は無い。

私は、願う。もう少しだけ、仲間と一緒に学ぶ日々を過ごしていきたい。もう少しだけ、恩師にご指導いただける時間を過ごしていきたい。卒業して、たまにしか会うことができなくなっても、またいつものようにバカなことをやらかしたい。だから、最後にもう一度だけ言わせて欲しい。



伊豆の海ではしゃぐ著者（左から2番目）と5期女

——これからもよろしく願います。